

科目名 (英)	音響学・聴覚心理学 I Acoustics and Audio Psychology I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥山 裕太
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 1限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 予定：前半で、音の物理的な性質や音声生成、音響理論、言語音の音響的特徴、音声の音響分析などを、後半で、音の知覚や心理学について学習する。							
【到達目標】 音の構成を物理化学的に分析する音響学や、音の心理的側面について学習する。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:「言語聴覚士のための音響学 2訂版」 医歯薬出版 参考書:「ビジュアル音声学」 三省堂、 配布配布				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 音について、音の性質(周波数、周期、波長、音速)、音の種類を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面①			9	【到達目標】 アクセントイントネーション、ピッチ曲線を理解する。 【授業内容】 超分節的要素の音響的特徴と知覚		
2	【到達目標】 スペクトル、音の要素(音の強さと音圧、デシベル)を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面②			10	【到達目標】 音声の音響分析について学び、理解する。 【授業内容】 音声分析		
3	【到達目標】 音圧レベルの定義、音圧レベルの計算を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面③			11	【到達目標】 音の大きさと音圧の関係を理解し、音の大きさの尺度について説明ができる。 【授業内容】 音の心理物理学①		
4	【到達目標】 聴力レベル、感覚レベルの定義、音圧レベルとの関係性を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面④			12	【到達目標】 音の高さと音の周波数成分の関係を理解し、音の高さの尺度について説明ができる。 【授業内容】 音の心理物理学②		
5	【到達目標】 共鳴、音響管、声道共鳴、定在波を理解する。 【授業内容】 音響管の周波数特性			13	【到達目標】 音声を聴覚心理学的視点から理解する。 音の同時処理や継時的処理について理解する。 【授業内容】 音声の知覚、マスキング		
6	【到達目標】 線形システム、ソースフィルタ理論を理解する。 【授業内容】 音声生成の音響理論			14	【到達目標】 音の聞こえ、両耳効果を理解する。また、環境による聞こえについて理解する。 【授業内容】 両耳の聞こえ、環境と聴覚		
7	【到達目標】 講義の前半の知識の定着 基本周波数、母音などの言語音の音響的特徴を理解する。 【授業内容】 中間テスト、言語音の生成と知覚①			15	【到達目標】 講義で学んだ知識の定着 【授業内容】 定期試験、授業の振り返り		
8	【到達目標】 子音の音響特性、構音方法、音声学との関わりを理解する。 【授業内容】 言語音の生成と知覚②			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	統計学 Statistics	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	BSC(ブレーンスタッフコンサルタンツ)
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) プログラマー、Webデザイナー、パソコン教室の講師、ITコンサルタントなどの実績を持つ所属インストラクターが講義を実施							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 滋慶学園グループ所属企業の(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて講義を実施。Excelの基本的な操作と、Excel統計処理を学習。 学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。							
【到達目標】 ・Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる ・Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活用できる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 e-learningテキストで操作方法を確認し、繰り返し練習することでスキルを定着する			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 AIリテラシー 身近なAIを知り、AIとの協働を考えることができる 【授業内容】 1 身近なAI 2 人とAIの協働 3 AIの種類 4 AIの得意・不得意 5 AI体験 6 AIの現状・社会的課題			9	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)1 データの特徴を数値化できる (平均、分散、標準偏差) 【授業内容】 ・平均と分散の意味と求め方 ・標準偏差の意味と求め方		
2	【到達目標】 データリテラシー データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる 【授業内容】 1.平均、中央値、最頻値 2.外れ値、異常値、欠損値 3.データの分類(質的・量的) 4.相関、因果関係、疑似相関 5.不適切なグラフ表現			10	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)2 データの特徴を視覚化できる1 (基本統計量を求める、ヒストグラムの作成) 【授業内容】 ・分析ツールの使用 ・基本統計量の算出 ・度数分布表(ヒストグラム)の作成 ・標準偏差のグラフ図示		
3	【到達目標】 Excel入門 ExcelでOfficeの基本操作ができる 【授業内容】 1.セルの書式設定 2.数値の書式設定 3.罫線の設定			11	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)3 データの特徴を視覚化できる2 (散布図、相関係数を求める) 【授業内容】 ・散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す ・相関係数の算出		
4	【到達目標】 Excel基礎1 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる 【授業内容】 1 表の作成(復習) 2 オートフィル 3 数式の作成 4 SUM関数 5 グラフ作成 6 印刷			12	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)4 統計的検定を実施できる1 【授業内容】 ・母集団・標本・抽出について ・統計的検定の手法について ・t検定(一対の標本の平均値の差の検定) ・F検定(分散の検定)		
5	【到達目標】 Excel基礎2 関数を駆使した資料を作成できる 【授業内容】 1.割合を求める 2.相対参照と絶対参照 3. AVERAGE関数 4.COUNTIF関数 5. シートの操作			13	【到達目標】 初級データサイエンス(統計編)5 統計的手法を選択して利用できる 【授業内容】 ・データの分類 ・結論の書き方 ・統計手法の復習		
6	【到達目標】 Excel基礎3 グラフを駆使した資料を作成できる 【授業内容】 1.目的に応じたグラフ作成 2.グラフのレイアウト 3.行や列の挿入 4.グラフの編集 5.目的に応じたグラフ作成2			14	【到達目標】 初級データサイエンス試験対策 初級データサイエンス(統計編)で習ったことを実践できる 【授業内容】 初級データサイエンス(統計編)復習問題の実施		
7	【到達目標】 Excel試験対策 Excel基礎1~3で習ったことを実践してデータ処理をおこなえる 【授業内容】 Excel復習問題の実施			15	【到達目標】 初級データサイエンス試験 後期試験 【授業内容】 後期試験		
8	【到達目標】 Excel中テスト 後期中テスト 【授業内容】 後期中テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児科学 Pediatrics	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古市奏絵
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 小児病院で総合診療科、内分泌科、消化器科、心療内科で従事。その後保育園看護師として医療介入の必要な児を担当しながら全園児の健康管理を行う							
【授業の学習内容】 言語聴覚士が小児療育に携わるにあたり、必要な基礎知識を疾患ごとに取得していく 成長・発達時期に起因する疾病の原因、診断、治療について学び、専門分野の基礎とする 小児分野において成人とは異なる特有の生理をはじめ発達や病的状態の理解を行う							
【到達目標】 小児の成長・発育の特徴を理解する 小児の発達過程の特徴を説明することができる 周産期医学、障害、疾患について説明することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための基礎知識「小児科学・発達障害学」第3版 医学書院				【授業外における学習】 医療専門用語や難しい内容も多いので事前学習や予習をして講義を受ける また、講義後は復習を行う			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 小児の成長・発達を学び理解することができる 【授業内容】 小児科学概論、小児の発達・成長			9	【到達目標】 循環器系疾患について学び理解することができる 【授業内容】 正常な血行動態・心構造、循環器疾患に伴う症状、循環器疾患を診断するための検査、先天性心疾患、後天性心疾患、不整脈		
2	【到達目標】 小児保健について学び理解することができる 【授業内容】 育児、乳幼児健診、事故、予防接種、児童虐待			10	【到達目標】 呼吸器疾患・感染症について学び理解することができる 【授業内容】 小児呼吸器の病態生理学的特徴、解剖別の呼吸器疾患、感染経路別対策、学校感染症、予防接種、疾患各論		
3	【到達目標】 小児疾患の診断法について学び理解することができる 【授業内容】 小児疾患の診断法、問診、診察法、主要症状による鑑別診断			11	【到達目標】 消化器疾患・内分泌・代謝疾患について学び理解することができる 【授業内容】 消化器の正常な機能、消化器疾患の主要な症候、消化器疾患、内分泌疾患、代謝系疾患		
4	【到達目標】 遺伝疾患と先天異常について学び理解することができる 【授業内容】 遺伝疾患の分類と頻度、主な染色体異常症、先天奇形、先天代謝異常			12	【到達目標】 免疫・アレルギー疾患・膠原病について学び理解することができる 【授業内容】 免疫疾患、アレルギー総論、アレルギーの診断、アレルギー性疾患各論、膠原病・自己免疫疾患		
5	【到達目標】 新生児疾患について学び理解することができる 【授業内容】 新生児・周産期とは、新生児の分類と用語、ハイリスク新生児、新生児の生理と適応、低出生体重児・早産児、新生児仮死			13	【到達目標】 腎・泌尿器・生殖器疾患について学び理解することができる 【授業内容】 基本的知識、症候、検査、糸球体疾患、全身性疾患に伴う腎障害、遺伝性腎疾患、尿管・間質性疾患、腎不全、腫瘍、尿路感染症、腎・尿路の先天異常、生殖器疾患		
6	【到達目標】 新生児疾患について学び理解することができる 【授業内容】 中枢神経系の障害、呼吸器疾患、循環器疾患、新生児感染症			14	【到達目標】 血液疾患・悪性腫瘍 心身症・神経症 眼科・耳鼻科系疾患について学び理解することができる 【授業内容】 貧血、出血性疾患、白血病、悪性腫瘍、子どもの心身症、眼科系疾患、耳鼻科系疾患		
7	【到達目標】 神経・骨・筋肉疾患について学び理解することができる 【授業内容】 神経系			15	【到達目標】 授業の内容の理解を深め定着、説明することができる 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 神経・骨・筋肉疾患について学び理解することができる 【授業内容】 骨・運動器、骨系統疾患			【評価について】 小テストと定期試験での評価 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症Ⅱ aphasiaⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 2限
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 失語症における言語症状、タイプ分類を理解し、治療計画の立案、訓練法の選択などより実践的な点を学んでいく。実務経験を生かし、臨床の現場や実習に必要な学びを得られるような授業を行ないます。また、現在の言語聴覚療法において主流となっている、認知神経心理学的プログラム(ロゴジェンモデル)を用いて症状を理解し、検査の解釈、目標設定、適切な訓練立案を行なえるようにわかりやすく学習する。							
【到達目標】 ① 失語症の基礎的知識、それぞれの失語タイプの特徴を復習する。 ② 失語症の障害メカニズムを言語処理モデル(ロゴジェン・モデル)に沿って学び、説明ができる。 ③ 検査結果を障害メカニズムに照らし合わせ、問題点から訓練方法を考え、その技法を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 失語症学第2版」医学書院 ・「失語症訓練の考え方と実際―新人STへのヒント―」三輪書店 他				【授業外における学習】 専門用語について、事前学習をしておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 失語症の基礎的知識を復習する。どのような言語症状を呈し、それぞれの失語症タイプの特徴を理解、説明できる。 【授業内容】 ①失語症とは何か ②失語症の言語症状			9	【到達目標】 言語処理モデルにおける単語、短文・長文の処理(理解)過程を説明することができる。 【授業内容】 ①単語・短文・長文の理解過程		
2	【到達目標】 治療における専門的対処を、ICFの概念から説明できる。リハビリテーションの過程、各期を考え、どのような関わりを持つ必要があるかを学ぶ。 【授業内容】 ①失語症治療の原則						

科目名 (英)	リハビリテーション概論 Introduction of Rehabilitation	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	芳野・下岡・長島
		授業形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
芳野:理学療法士として病院・診療所にて実務経験25年。急性期から生活期まで言語聴覚士を含めた多職種との連携した経験がある。 下岡:作業療法士として病院・介護老人保健施設等で実務経験25年半。2004年から多職種連携を学び、STとは糖尿病患者の対応や摂食嚥下で連携していた。 長島:理学療法士として病院・診療所にて実務経験28年。急性期から生活期まで、病院及び地域の多職種と連携した経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
リハビリテーションの専門職である言語聴覚士としてリハビリテーションとは何か概念や歴史等を学ぶ。さらに言語聴覚士として連携が必須である他職種の業務内容および連携する場合などを各専門職種として経験豊富な講師から実践例を挙げつつ学ぶ。加えて、近年必要性が高まってきている多職種連携についても、ロールプレイなどの実践を通してながら理解する。本授業は複数の講師によるオムニバス授業である。							
【到達目標】							
・リハビリテーション専門職である言語聴覚士として多職種と連携を行えるために、リハビリテーションの概念・他職種の職域とそれらとの連携について学ぶ。 ・リハビリテーションの概念を説明することができる。 ・言語聴覚士と関わる他職種の役割・特徴および言語聴覚士との類似点・相違点・多職種と関わる方法・注意点について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				指定教科書を予習を要する。講師によっては、事前課題を課す。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1 芳野	【到達目標】 リハビリテーション概念・歴史等の説明ができる。 【授業内容】 リハビリテーションとは何か。概念・歴史・変遷などについて解説し、必要な能力について検討する			9 芳野	【到達目標】 理学療法とは何か・関わる対象者・その方法について説明できる。 【授業内容】 理学療法士の歴史・役割を学ぶ		
2 芳野	【到達目標】 急性期～生活期リハ等の様々な領域のリハについて説明ができる。 【授業内容】 急性期～生活期までのリハビリテーション専門職としての役割について検討する			10 芳野	【到達目標】 理学療法士と言語聴覚士の連携について説明できる。 【授業内容】 言語聴覚士と理学療法士の連携について事例を通して検討する		
3 芳野	【到達目標】 障害およびICFについて説明ができる。 【授業内容】 障害の特性とICFについて事例を通して学ぶ			11 長島	【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの役割が説明できる。 【授業内容】 小児(脳性麻痺)のリハビリテーションの役割についてケースを通して検討を行う。		
4 芳野	【到達目標】 リハビリテーションにかかわる社会制度について説明できる。 【授業内容】 医療保険・介護保険・身体障害者手帳などについて学ぶ			12 長島	【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの実践について説明できる。 【授業内容】 小児(脳性麻痺)のリハビリテーションの実践についてケースを通して検討を行う。		
5 長島	【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの役割が説明できる。 【授業内容】 少子高齢社会において、小児領域のリハビリテーションの役割を考える。			13 下岡	【到達目標】 作業療法の定義、作業療法とは何か・関わる対象者・その方法について説明できる。 【授業内容】 作業療法の歴史や定義から、作業療法士の役割を学ぶ。作業療法士の業務について例を挙げながら説明する。		
6 長島	【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの実践について説明できる。 【授業内容】 小児(脳性麻痺)のリハビリテーションの概要について説明できる。			14 下岡	【到達目標】 作業療法士と言語聴覚士の連携について説明できる。 【授業内容】 言語聴覚士と作業療法士の連携について検討する。視聴覚教材を用いて作業療法士のアプローチを学ぶ。		
7 下岡	【到達目標】 多職種連携のとは何か・その歴史・必要性・必要な能力について説明ができる。 【授業内容】 多職種連携の必要性を学ぶ。多職種連携の目的を学ぶ。			15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、リハビリテーションについての理解を定着させる 【授業内容】 定期試験・前期授業振り返り		
8 下岡	【到達目標】 各職種に分かれロールプレイを行い、多職種連携を実感することができる。他の職種の役割を理解し説明できる。 【授業内容】 多職種との関係において言語聴覚士はどのような役割を担っていくのかを検討する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害Ⅱ Higher Brain Dysfunction Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義・演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 高次脳機能障害障害の評価訓練、支援を行ってきた現役の言語聴覚士が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行います。本授業では主として失認、失行の基本知識を学び自ら説明できることを目標とします。そのうえで臨床で使用されることが多い神経心理検査のスキルの取得を目指します。							
【到達目標】 ・失認、失行の各病態と病巣、症状を説明することが出来る ・高次脳機能障害を評価する検査を実施できる							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害 第3版」(医学書院) プリント配布				【授業外における学習】 上記、他科目の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 高次脳機能障害とは何か全体像を思い出す 【授業内容】 高次脳機能障害の定義、各障害の簡単な概略			9	【到達目標】 レーブン色彩マトリクス検査(RCPM)について適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 レーブン色彩マトリクス検査(RCPM)実施		
2	【到達目標】 視覚失認の定義、症状、病巣が説明できる。統覚、連合、統合型の特徴を述べられる 【授業内容】 統覚型、連合型、統合型視覚失認			10	【到達目標】 RCPMや他の神経心理学検査の結果から症例の状態を把握できる 【授業内容】 症例検討		
3	【到達目標】 視覚失認に関連する失認のについて理解する 【授業内容】 物体失認 視覚性失語 相貌失認 色彩失認、同時失認 聴覚性失認 病態失認、触覚性失認			11	【到達目標】 観念失行、観念運動失行について説明ができる 【授業内容】 観念失行、観念運動失行		
4	【到達目標】 標準高次視知覚検査の適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準高次視知覚検査を実施			12	【到達目標】 その他の失行について名前と症状が一致する。WABの行為を実施ができる。脳梁離断症状について説明が出来る 【授業内容】 失行(観念失行、観念運動実行以外)WAB行為、脳梁離断症状		
5	【到達目標】 標準注意検査法(CAT)について適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準注意検査法(CAT)を実施			13	【到達目標】 標準高次動作性検査の適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準高次動作性検査を実施		
6	【到達目標】 標準注意検査法(CAT)について適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準注意検査法(CAT)を実施			14	【到達目標】 高次脳機能障害のスクリーニング作成できる 【授業内容】 高次脳機能障害のスクリーニング作成		
7	【到達目標】 進行性失語についてタイプや訓練法などが説明できる 【授業内容】 進行性失語のタイプ、評価、訓練の概略について			15	【到達目標】 後半の授業内容について理解が出来ているか確認を行う 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する。ここまでの復習を行う 【授業内容】 中間試験・実施 標準注意検査法(CAT)残りを実施			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 知識面を理解しないと検査の解釈が難しいので復習を重視して下さい							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅱ Diagnosis of Speech and Hearing Impairment Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年生	担当教員	小林 穂 平野 裕紀
		授業 形態	講義演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 2,3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 成人領域を対象に、障害を持つ患者に対する実際の臨床について学んでいく。情報収集においてそれぞれが持つ目的や、評価・診断をするために必要なスクリーニングや検査法の特徴を理解し、結果の処理・解釈に関する知識を身につける。臨床実習に携わってきた実務経験を活かし、わかりやすい授業を行なう。							
【到達目標】 ① 成人領域の障害について、的確に評価・診断していく過程を理解し説明することができる。 ② 評価・診断の流れをイメージし、対応できる、また文章での表現ができる。 ③ 評価・診断の結果から、適切な訓練プログラムを立案できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 医学と看護社「明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断－成人編－」 ※ その他資料				【授業外における学習】 レポートにて表現をすることが多いため、文章での表現に少しでも慣れておくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚障害診断における目的、鑑別診断、障害の有無やタイプ、特徴などを評価する必要性を説明することができる 【授業内容】 ①評価とは何か ②発症経過ごとの評価の目的			9	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
2	【到達目標】 評価の重要性を知り、訓練、治療プログラムを選択するまでの臨床的な流れを説明することができる 【授業内容】 ①情報収集 ②面接、スクリーニング ③検査			10	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
3	【到達目標】 検査を行う意義を知り、治療を必要とする対象者に適切な検査を選択し、治療につなげることができる 【授業内容】 ①検査を実施する前段階の知識 ②検査の種類 ③検査の解釈 ④治療の流れ			11	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
4	【到達目標】 対象者に行う検査を知り、説明ができる 【授業内容】 ①総合的検査 ②掘り下げ検査 ③知能検査 ④その他の検査			12	【到達目標】 総合的検査、掘り下げ検査、知能検査、その他の検査の意義を知り、適切に実施、記録することができる 【授業内容】 ①検査演習、記録用紙の記載		
5	【到達目標】 対象者の観察に必要な面接、スクリーニングのポイントを知り、その技法を実施できる 【授業内容】 ①面接、スクリーニングの考え方 ②面接、スクリーニングの実践 ③面接の項目と技法			13	【到達目標】 症例の面接、スクリーニングを確認し、適切な評価、検査の選択が実施できる 【授業内容】 ①スクリーニング、面接内容の記録 ②症例の検討		
6	【到達目標】 適切にスクリーニング検査を実施することができる 【授業内容】 ①スクリーニング検査の理解 ②スクリーニング検査の実施			14	【到達目標】 適切な評価を実施し、内容をまとめることができる ※中間テスト 【授業内容】 ①症例の検討 ②レポートの提出		
7	【到達目標】 適切にスクリーニング検査を実施することができる レポートの書き方を知る 【授業内容】 ①スクリーニング検査の理解 ②スクリーニング検査の実施 ③レポートの書き方			15	【到達目標】 総合的検査の結果から、適切な掘り下げ検査を提示し、その理由が説明できる 【授業内容】 ①症例の検討 ②レポートの提出		
8	【到達目標】 実施した観察、スクリーニング検査を基に、適切な観察レポートを書くことができる 【授業内容】 ①レポートの書き方 ②レポートの提出			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅰ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	小林 穰
	Comprehensive Course for Speech and HearingⅠ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	前期 月曜 1,2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
総合病院、訪問看護リハビリステーションで言語聴覚士として勤務した経験を持つ。言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】							
病院、老人保健施設、訪問業界で臨床経験を積んできた教員の指導を基に成人の学内実習を行い、評価や治療計画立案や治療を経験する。具体的には症例検討や実際に患者様と接し言語聴覚士として初期の全体スクリーニングが実施できる力をつけ、スクリーニングから言語聴覚障害診断につなげる能力を養う。また臨床実習IIに向け観察所見報告書、症例報告書の記載方法、メモのとり方など実践を通して学ぶことができる。							
【到達目標】							
言語聴覚療法における評価・診断の流れを説明できる ●言語聴覚療法の評価プランの立て方について説明できる ●言語聴覚療法の評価・診断において収集する情報の種類と収集方法を説明できる ・スクリーニング検査総合的(鑑別診断)検査特定(掘り下げ)検査の違い(目的と関連性)について説明できる ●収集した情報のまとめ方(情報の分析と統合)について説明できる ●問題点抽出、適応の判断予後予測、方針の決定の方法について説明できる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教科書:「明日からの臨床・実習に使える 言語聴覚障害診断 成人編 改定第2版」医学と看護社							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 スクリーニングの実施する必要性を説明することができる。			9	【到達目標】 MMSE、HDS-Rの設問の意味や設問の結果からどの様な症状が読み取れるのか、MMSEとHDS-Rとの違いを説明することができる。		
	【授業内容】 ①STADスクリーニング検査の意義 ②STADの演習				【授業内容】 ①HDS-RとMMSEの検査法を学び演習する ②簡易スクリーニング検査の注意点を改めて確認する		
2	【到達目標】 STAD(スクリーニング検査)を実施している場面を観察し適切に評価、観察ポイントを記載することができる。			10	【到達目標】 MMSEの検査を行うことができる HDS-Rの検査を取ることができる		
	【授業内容】 STADの演習を行い適切に評価、診断をすることができる。 教員によるOSCEを観察し適切に評価、メモを取ることができる。				【授業内容】 演習を通して検査方法を学び実施することができる。 結果から症状を理解することができる。		
3	【到達目標】 言語性・視覚性・知能性の掘り下げ検査の種類を知り説明することができる。			11	【到達目標】 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の検査法や実施の目的、結果の解釈を学び説明することができる。		
	【授業内容】 ①言語性検査 ②視覚性検査 ③知能性検査				【授業内容】 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の検査法理解することができる。		
4	【到達目標】 実際の場面を想定しメモを取る。変化した内容や障害されている機能、残存している機能などを観察し評価を行うことができる。			12	【到達目標】 演習を通して検査方法を学び実施し、結果から症状を理解することができる。レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)を行うことができる		
	【授業内容】 患者様の動画、音声を活用した初回評価、インテークを実践することができる。				【授業内容】 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の検査演習		
5	【到達目標】 患者様の基礎情報、現病に関する情報を収集することができる。			13	【到達目標】 評価報告書、観察レポートを作成するうえでの注意点を理解し、これまで関わってきた患者様の報告書を記載することができる。		
	【授業内容】 言語聴覚士による初回評価、訓練場面を観察し言語聴覚士の行っている訓練の意図や指定された評価用紙に適切にメモを取ることができる。				【授業内容】 評価報告書を書く目的、注意事項、報告書の形式を学ぶ。 観察レポートを書く目的、注意事項、報告書の形式を学ぶ。		
6	【到達目標】 患者様の基礎情報、観察情報を元に訓練プログラム、訓練目標の立案ができる。			14	【到達目標】 評価報告書、観察レポートを作成するうえでの注意点を理解し、これまで関わってきた患者様の報告書を記載することができる。		
	【授業内容】 言語聴覚士の訓練場面を観察し、情報収集を行う。言語聴覚士が実施した訓練や質問の意図を汲みとることができる。				【授業内容】 査や観察で得られた情報を元に評価報告書、観察レポートにまとめ、記入する。		
7	【到達目標】 患者様の基礎情報、観察情報を元に訓練プログラム、訓練目標の立案ができる。			15	【到達目標】 評価報告書、観察レポートの提出 症例検討		
	【授業内容】 言語聴覚士の訓練場面を観察し、情報収集を行う。言語聴覚士が実施した訓練や質問の意図を汲みとることができる。				【授業内容】 検査や観察で得られた情報を元に評価報告書、観察レポートにまとめ、記入する。		
8	【到達目標】 観察、検査、情報提供書を元に訓練計画プログラムを立案する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	地域言語聴覚療法学 Community-based Speech and hearing therapy	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	吉田 直行
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
訪問看護ステーションと歯科クリニックで言語聴覚士として在宅分野でのリハビリを提供してきた経験を持つ							
【授業の学習内容】							
在宅分野で得た経験を活かして関連する制度やリハビリテーションの実際を未経験の学生にも理解しやすく授業を行う。特にリハビリテーションに関わることに關しでは、症例検討等を行い、グループディスカッションで学生のアウトプットする場を設け、理解を深めていく。							
【到達目標】							
・地域言語聴覚療法とは何かを知り、地域で働くSTとしての役割を考える。・介護予防における言語聴覚士の取り組みを理解する。 ・地域包括ケアシステムとそれに関連する制度について理解する。・地域言語聴覚療法における情報収集から訓練までの流れ、それに必要な連携・リスク管理等について理解する。・地域言語聴覚療法の実際について、症例を通して理解を深める。							
【使用教科書・教材・参考書】 「地域言語聴覚療法学」医学書院 配布資料				【授業外における学習】 基本的な評価方法や訓練方法などは予め予習してきもらう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 地域言語聴覚療法とは何かを知り、地域で働くSTとしての役割を理解する。 【授業内容】 地域言語聴覚療法とは・地域言語聴覚療法の実際 地域における連携・制度・特徴			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 地域包括ケアシステムとそれに関連する制度について理解する。 【授業内容】 地域包括ケアシステム・医療関連のシステムと制度 介護関連のシステムと制度			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 地域包括ケアが必要になる社会的背景を知り、介護予防における言語聴覚士の取り組みを理解する。 【授業内容】 地域包括ケアにおける言語聴覚療法 介護予防における言語聴覚療法			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 地域言語聴覚療法におけるサービスと役割について理解する。 【授業内容】 外来・通所・入所・在宅における言語聴覚療法			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 地域言語聴覚療法における情報収集から訓練までの流れ、それに必要な連携・リスク管理等について理解する。 【授業内容】 情報収集と評価・支援計画および訓練・指導・援助・職種間連携 リスク管理			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 地域における連携について関連職種を知り、連携の原則を理解する。 【授業内容】 関連職種と言語聴覚士の役割・連携の種類、原則			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 地域言語聴覚療法の実際について、症例を通して理解を深める。 【授業内容】 失語症・摂食嚥下障害			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期テストを行い理解度を確認する。振り返りを行い理解できなかった部分を復習する。 【授業内容】 定期テスト・解答解説＆振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会保障制度・関連法規Ⅰ Social Security System・ Related LawsⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋 均
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	前 期 曜日・時間 木曜 3限
学科・コース		言語聴覚士科					
【実務経験】 県職員として、児童相談所、県立病院、リハビリテーションセンターなどでソーシャルワーカー等の社会福祉・医療関連37年間の実務経験を持つ。							
【授業の学習内容】 児童福祉、障害者福祉、医療等の分野で、ソーシャルワーカーやケアワーカーとしての実務経験と、社会福祉士(1997年資格取得)としての実践経験を活かした授業を行う。本科目では、「社会福祉サービス」を中心に「社会保障制度」を、現実の問題を踏まえて理解し、将来の専門職として実践していくのに役立つよう講義を進めていきたい。							
【到達目標】 ・社会保障・社会保障制度について、言語聴覚士としての職務に役に立つ知識や考え方を身につけ、実践力を高める。 ・国家試験に合格できる力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 コメディカルのための社会福祉概論第5版(講談社)				【授業外における学習】 身の回りの医療や介護などの制度について関心を向けてみる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚士にとって必要な社会福祉・社会保障の基礎的な概念を理解をする。 【授業内容】 オリエンテーション。社会保障と社会福祉の基礎概念			9	【到達目標】 子どもとその家庭に関わる福祉制度について理解する。 【授業内容】 子ども家庭福祉制度		
2	【到達目標】 公的年金制度と、労災等の労働保険制度について理解を深める。 【授業内容】 年金制度と労働保険			10	【到達目標】 言語聴覚士にかかわりの深い聴力障害等障害者(児)福祉について、その理念や制度について理解する。 【授業内容】 障害者福祉の法律 身体障害手帳		
3	【到達目標】 医療従事者にとって重要な医療関係制度を理解する。 【授業内容】 医療制度と医療保険			11	【到達目標】 前回に続き、障害児・者の福祉サービスについて理解を深める。 精神障害者福祉について理解する。 【授業内容】 障害児・者のサービス制度 精神障害者福祉の制度		
4	【到達目標】 社会福祉制度全般について、そのしくみを理解する。 【授業内容】 社会福祉の法体系、実施機関、社会福祉施設			12	【到達目標】 言語聴覚士にもかかわりの深い高齢者を支える制度について理解する。 【授業内容】 高齢者福祉の法律 介護保険		
5	【到達目標】 貧困問題と公的扶助(生活保護制度)について理解する。 【授業内容】 貧困問題と生活保護制度、その他貧困対策			13	【到達目標】 前回に続き、高齢者福祉について、地域福祉の側面から理解を深める。 【授業内容】 地域福祉論 地域包括ケアシステム		
6	【到達目標】 ソーシャルワークなど社会福祉の援助技術を学ぶことにより、対人援助者としての専門性を理解する。 【授業内容】 社会福祉の援助技術(ソーシャルワーク等)			14	【到達目標】 福祉と医療の連携と言語聴覚士に期待される役割について理解を深める。 【授業内容】 福祉・医療の連携のしくみ 専門職に期待される役割		
7	【到達目標】 社会福祉や医療の専門職について理解し、自覚を深める。 【授業内容】 社会福祉・医療の専門職			15	【到達目標】 これまでの学習の確認。国家試験対応の自覚を深める。 【授業内容】 定期試験とその解説		
8	【到達目標】 中間テストによりここまでの学習の確認 言語聴覚士業務にも関連する母子保健について理解する。 【授業内容】 中間テスト 母子保健制度			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害Ⅱ Higher Brain Dysfunction Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山崎 勇太
		授業 形態	講義・演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 1 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 言語聴覚士、公認心理師として生活期で訪問リハビリテーション、外来リハビリテーション、言語ケア、言語サービス、介護老人保健施設での臨床経験を有する							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 高次脳機能障害障害の評価訓練、支援を行ってきた現役の言語聴覚士が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行います。本授業では主として失認、失行の基本知識を学び自ら説明できることを目標とします。そのうえで臨床で使用されることが多い神経心理検査のスキルの取得を目指します。							
【到達目標】 ・失認、失行の各病態と病巣、症状を説明することが出来る ・高次脳機能障害を評価する検査を実施できる							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害 第3版」(医学書院) プリント配布				【授業外における学習】 上記、他科目の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 高次脳機能障害とは何か全体像を思い出す 【授業内容】 高次脳機能障害の定義、各障害の簡単な概略			9	【到達目標】 レーブン色彩マトリクス検査(RCPM)について適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 レーブン色彩マトリクス検査(RCPM)実施		
2	【到達目標】 視覚失認の定義、症状、病巣が説明できる。統覚、連合、統合型の特徴を述べられる 【授業内容】 統覚型、連合型、統合型視覚失認			10	【到達目標】 RCPMや他の神経心理学検査の結果から症例の状態を把握できる 【授業内容】 症例検討		
3	【到達目標】 視覚失認に関連する失認について理解する 【授業内容】 物体失認 視覚性失語 相貌失認 色彩失認、同時失認 聴覚性失認 病態失認、触覚性失認			11	【到達目標】 観念失行、観念運動失行について説明ができる 【授業内容】 観念失行、観念運動失行		
4	【到達目標】 標準高次視知覚検査の適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準高次視知覚検査を実施			12	【到達目標】 その他の失行について名前と症状が一致する。WABの行為を実施ができる。脳梁離断症状について説明が出来る 【授業内容】 失行(観念失行、観念運動実行以外)WAB行為、脳梁離断症状		
5	【到達目標】 標準注意検査法(CAT)について適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準注意検査法(CAT)を実施			13	【到達目標】 標準高次動作性検査の適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準高次動作性検査を実施		
6	【到達目標】 標準注意検査法(CAT)について適応が理解出来て、マニュアルを見ながら実施ができる 【授業内容】 標準注意検査法(CAT)を実施			14	【到達目標】 高次脳機能障害のスクリーニング作成できる 【授業内容】 高次脳機能障害のスクリーニング作成		
7	【到達目標】 進行性失語についてタイプや訓練法などが説明できる 【授業内容】 進行性失語のタイプ、評価、訓練の概略について			15	【到達目標】 後半の授業内容について理解が出来ているか確認を行う 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する。ここまでの復習を行う 【授業内容】 中間試験・実施 標準注意検査法(CAT)残りを実施			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 知識面を理解しないと検査の解釈が難しいので復習を重視して下さい							

科目名 (英)	嚥下障害 I Dysphagia I	必修 選択	必修	年次	講義	担当教員	川口 静
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日・1.2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 急性期病院でのリハビリ業務の経験24年							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 摂食嚥下に関わる解剖やモデルについて解説する。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会における様々な評価方法は実技も交え演習し、訓練内容についても動画等を使用し説明する。							
【到達目標】 摂食嚥下についての解剖や5期モデル、摂食嚥下評価・訓練について理解し、実践できる力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ①見える！わかる！摂食嚥下のすべて ②日本摂食嚥下リハビリテーション学会摂食嚥下評価方法				【授業外における学習】 毎回授業後に復習すること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 摂食嚥下の解剖や5期モデルについて説明できる。 【授業内容】(①P14～) 摂食嚥下の解剖 5期(先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期)			9	【到達目標】 嚥下造影(VF)の見方がわかる。 【授業内容】(①P172～) 嚥下造影(VF)の観察項目、異常所見		
2	【到達目標】 摂食嚥下をつかさどる神経 摂食嚥下訓練の開始基準について説明できる。 【授業内容】(①P40～) 摂食嚥下をつかさどる神経について理解する。 摂食嚥下訓練の開始基準について			10	【到達目標】 嚥下造影(VF)の見方がわかる。 【授業内容】(①P172～) 嚥下造影(VF)の観察項目、異常所見		
3	【到達目標】 摂食嚥下の観察ポイントがわかる。 摂食嚥下評価方法について理解し、実践できる。 【授業内容】(①146～) 摂食嚥下の観察ポイント 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より0～3)・実習			11	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解する。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より10～11)・実習		
4	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解し、実践できる。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より4～7)・実習			12	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解する。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より12～14)・実習		
5	【到達目標】 摂食嚥下評価方法について理解し、実践できる。 【授業内容】 摂食嚥下評価方法(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より8)・実習			13	【到達目標】 摂食嚥下に基づいた訓練立案ができる。 【授業内容】(①P262～) 訓練内容について(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より抜粋)		
6	【到達目標】 嚥下内視鏡(VE)の見方がわかる。 【授業内容】(①P163～) 嚥下内視鏡(VE)の観察項目、異常所見			14	【到達目標】 摂食嚥下評価に基づいた訓練計画を立てることができる。 【授業内容】(①P262～) 訓練内容について(日本摂食嚥下リハビリテーション学会より抜粋)		
7	【到達目標】 嚥下内視鏡(VE)の見方がわかる。 【授業内容】(①P163～) 嚥下内視鏡(VE)の観察項目、異常所見			15	【到達目標】 適切な食形態・食事介助 定期試験 【授業内容】 解説授業		
8	【到達目標】 中間テストを通してこれまでの学習内容を復習する。 【授業内容】 中間テスト 解説授業			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語学 I Linguistics I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木 唯
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 2・3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
【授業の学習内容】 予定: 言語の概念を知り、文法や意味などを科学的な視点から理解する。							
【到達目標】 言語学の様々な分野における基礎知識を身につけ、科学的に言語を分析する視点を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」 医学書院□				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ことばとは何か、記号体系としての言語、言語の持つ性質を理解する 【授業内容】 言語学の基礎			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 音素や異音、アクセントなどのを理解する 【授業内容】 音韻論			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 語の形成、内部構造を理解する 【授業内容】 形態論①			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 語の形成、内部構造を理解する 【授業内容】 形態論②			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 文の構造を理解する 【授業内容】 統語論			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 語の意味、文の意味、文の情報構造を理解する 【授業内容】 意味論・語用論			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 定期テストに向けて問題演習をすることで復習をする 【授業内容】 テスト前演習			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、言語学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	器質性構音障害 Organic Articulation Disorders	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西脇恵子	
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 3 限	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 器質性構音障害に関する症例は多数である。								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 【授業の方法】主に講義で行うが、理解到達度をみるために、指名一回答一説明のアクティブラーニング形式で行う場合もある。また、必要に応じて、適宜相互演習を含み、体験学習を行う。								
【到達目標】 1)発声発語器官の解剖と働きを説明できる 2)器質性構音障害の原因疾患を説明する 3)器質性構音障害の評価と解釈ができる 4)器質性構音障害の言語聴覚士における対処方法を説明できる 5)器質性構音障害における他職種とのチームアプローチを説明できる								
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版(医学書院)					【授業外における学習】 次回の講義予定範囲に相応する教科書に目を通し、疑問点や不明な部分があれば、教科書にコメントやチェックを入れて講義に臨む。講義終了後は、各自その内容を振り返り、講義用ノートやデータに要点をまとめて理解を深める。			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 器質性構音障害に関する定義、原因疾患、症状と評価方法を説明できる。 【授業内容】 器質性構音障害の定義、原因疾患、症状、評価方法を学ぶ。 発声発語器官の生理を学ぶ。				9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 発声発語器官の生理、筋・神経の位置や働きを説明できる。 【授業内容】 発声発語器官にかかわる筋の触診を学び、筋や神経の位置と働きを学ぶ(相互実習を行う)				10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 唇顎口蓋裂に関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを説明できる。 【授業内容】 唇顎口蓋裂に関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを学ぶ。				11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 構音障害の臨床の一般的な流れと方法を理解する。 【授業内容】 中間テストとその説明 構音障害の臨床の一般的な流れと方法について学ぶ。				12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 舌小帯付着異常に関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを説明できる。 【授業内容】 舌小帯付着異常に関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを学ぶ。				13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 口腔がんに関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを説明できる。 【授業内容】 口腔がんに関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを学ぶ。				14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 器質性構音障害の原因となるその他の疾患に関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを説明できる 【授業内容】 器質性構音障害の原因となるその他の疾患に関する生理、治療方法、障害の種類と症状、言語聴覚士としてのかわりを学ぶ。				15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 器質性構音障害の臨床について説明できる。 口腔内装置の種類と有効性、言語聴覚士のかわりを説明できる 【授業内容】 定期テストとその説明 口腔内装置について学ぶ。				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】								

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅲ Language Development DisordersⅢ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ボーテージ早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 言語発達障害児に対して、言語聴覚療法を実践してきた教員が自身の経験を含めて、質疑を繰り返し知識の定着を目指す。 また、障害像をより明確にする為に、DVD教材を活用し、視覚的に理解を深める。							
【到達目標】 ・注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。 ・脳性麻痺の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。 ・各種言語発達検査や知能検査法の適応年齢や概要・特徴を把握し、説明する事ができる。 ・各検査の実施手順を理解し、説明や実施する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」医学書院 配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の定義・概要を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの定義・言語・コミュニケーションの特徴。			9	【到達目標】 これまでの講義内容の復習し、内容を理解する。 中間テスト。 【授業内容】 中間テスト。		
2	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の定義・概要を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの定義・言語・コミュニケーションの特徴。			10	【到達目標】 拡大・代替コミュニケーション(AAC)について、定義と概要や評価・支援法を学び、説明できる。 【授業内容】 AACの定義と概要や評価・支援法について。ローテクとハイテクの違い。VOCAの使用場面について。		
3	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・支援を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの評価(検査法の概要)と具体的な支援方法。			11	【到達目標】 知能検査法である、田中ビネーⅤ・WPSSI-Ⅲについての概要と、実施方法を学び、説明する事が出来る。 【授業内容】 田中ビネーⅤ・WPSSI-Ⅲについての概要と実施方法について。 検査内容の動画視聴。		
4	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・支援を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの評価(検査法の概要)と具体的な支援方法。			12	【到達目標】 知能検査法である、KABC-Ⅱ・DN-CASIについて概要・特徴を理解し、説明出来る。また、検査結果の解釈について理解し、説明出来る。 【授業内容】 KABC-Ⅱ・DN-CASIについての概要と実施方法について。		
5	【到達目標】 脳性麻痺の動画から臨床像や特徴を把握する。また、グループで話し合い、ポイントを確認・共有する。 【授業内容】 動画視聴(脳性麻痺) グループワーク(情報の共有・グループで発表)			13	【到達目標】 乳幼児から就学前の子どもの言語・コミュニケーション発達の評価法であるLCスケールについて、その概要と方法を理解し、説明出来る。 【授業内容】 LCスケールについての概要と実施方法について。		
6	【到達目標】 脳性麻痺・重複障害の定義・原因や脳性麻痺における言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴を学び説明できる。 【授業内容】 脳性麻痺・重複障害の定義・原因について。 言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴。			14	【到達目標】 子どもの会話能力の評価法である質問一応答関係検査の概要や実施方法・解釈を理解し、説明出来る。 【授業内容】 質問一応答関係検査の概要や実施方法・解釈のポイント。		
7	【到達目標】 脳性麻痺における言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴を学び、説明できる。 【授業内容】 病型別の麻痺の特徴や、言語コミュニケーションの特徴について。(流暢性など)			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 脳性麻痺の評価の概要・検査の種類や注意事項を目的等を学び、説明できる。 【授業内容】 評価・検査の種類や注意事項を目的について。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	導入教育Ⅱ introduction educationⅡ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	学科教員
		授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
学科教員							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本講義では、3年次の臨床実習Ⅱ・就職・国家試験に向けた目標を設定することが出来るよう臨床実習Ⅰを振り返る。 クラスで実習の振り返りを共有し、3年生に向けての対策が出来る様になることを目的とする。							
【到達目標】							
臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 実習で作成した課題物				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有 振り返りシートの作成・発表			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有 振り返りシートの作成・発表			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有 3年生の計画作成・発表			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 臨床実習Ⅰを振り返り、自身の長所短所を客観的に理解できる。 実習から自身の課題に気付き、次年度に向けた目標設定が出来る。 【授業内容】 グループ共有 3年生の計画作成・発表			【評価について】 出席16点・振り返りシート54点・3年生の計画30点にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	実習教育Ⅱ Overseas TrainingⅡ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	学科教員
		授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 1,2 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
学科教員							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本講義では、臨床実習Ⅰに向けた検査練習やケース検討を実施し、臨床実習Ⅰの目的である適切な評価診断と治療プログラム立案を学生が実施できるよう学ぶ。またオスキーを通し、臨床技術を身につける。							
【到達目標】							
臨床実習Ⅰの目的・意義を理解する。 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 実習生連絡票、各種検査マニュアル等				【授業外における学習】 検査練習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 臨床実習Ⅰの目的・意義を理解し、それに沿った行動できる。 【授業内容】 手引きの確認			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 ケース検討を通し、客観的評価・問題点の抽出・考察・治療プログラムの立案が出来る。 【授業内容】 グループワーク(ケース検討)			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。 【授業内容】 検査練習 オスキー			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。 【授業内容】 検査練習 オスキー			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。 【授業内容】 検査練習 オスキー			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。 【授業内容】 検査練習 オスキー			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。 【授業内容】 検査練習 オスキー			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 オスキーにて実習に必要な臨床技術を実践が出来る。 【授業内容】 検査練習 オスキー			【評価について】 出席50点、オスキーによる試験50点にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法Ⅱ Hearing TestⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 稔
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 1 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 総合病院、訪問看護リハビリステーションで言語聴覚士として勤務した経験を持つ。言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で臨床経験を積んできた教員が、聴覚検査について理解が深められるように聴覚検査の検査法を習得できる授業を行う。具体的には、検査前の準備、検査法のイメージを抱けるように実場面の動画を豊富に活用して教授する。また聴覚検査内で取り扱う専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。							
【到達目標】 聴力検査の種類、目的、検査方法や手順、結果の解釈が説明することができる。 純音聴力検査・語音聴力検査の正しい方法を学び、実際に実施ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・教科書:「標準言語聴覚検査学 聴覚障害学」医学出版 ・参考書:「聴覚検査の実際 改訂3版」南山堂				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 聞こえの仕組みと解剖学的部位を理解し説明できる。 【授業内容】 聞こえの仕組み			9	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の説明する。気導聴力検査の本検査の方法を説明する。骨伝導検査の方法を説明する。 【授業内容】 純音聴力検査①		
2	【到達目標】 音響性耳小骨筋反射検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 音響性耳小骨筋反射検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。			10	【到達目標】 マスキングの必要性を説明する。 【授業内容】 純音聴力検査②		
3	【到達目標】 自記オーディオメトリ、ABLBテスト、SISIテストの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 内耳機能検査①			11	【到達目標】 検査前の準備、検査の手順の確認を行い実際にGWでオーディオメーターを使用し気導聴力検査を実施する。 【授業内容】 純音聴力検査③		
4	【到達目標】 DL検査、MCL&UCL検査、OAEの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 内耳機能検査②			12	【到達目標】 語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。 目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 語音聴力検査①		
5	【到達目標】 聴性誘発反応検査の目的、方法を説明する。 【授業内容】 聴性誘発反応検査			13	【到達目標】 ティンパノメトリーの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 語音聴力検査②		
6	【到達目標】 耳鳴検査、成人の選別聴覚検査の目的、方法を説明する。 【授業内容】 耳鳴検査・成人の選別聴力検査			14	【到達目標】 検査前の準備、検査の手順の確認を行い実際にGWでオーディオメーターを使用し語音聴力検査を実施する。 【授業内容】 語音聴力検査③		
7	【到達目標】 機能性聴覚障害の検査、詐聴の目的、方法を説明する。 視覚聴覚二重障害の検査、評価、コミュニケーション支援の説明する。 【授業内容】 機能性聴覚障害、視覚聴覚二重障害			15	【到達目標】 これまで学んだ内容の総復習を行い、理解を深める。 【授業内容】 定期試験、解説		
8	【到達目標】 中間試験終了後に各検査の重要ポイントを総復習し理解を深める。 【授業内容】 中間試験、総復習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	成人聴覚障害 Auditory Rehabilitation	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	太田 智之
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 3限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 現場で使えるコミュニケーション方法の一つとしての「手話」の基礎を伝えていける授業としたい。「見る」だけでなく、「実際にやる授業」実践力を伝えたい。							
【到達目標】 簡単なコミュニケーションが、手話でできるようになる。 先天性難聴や中途失聴や老人性難聴などの難聴の影響、情報補償について学ぶ。国家試験で問われる知識を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 手話テキスト I (必要部分のコピー) 標準言語聴覚障害学―聴覚障害学 第3版 医学書院				【授業外における学習】 その日に学んだことは出来る限りその日に定着する様に心掛ける。わからない事予習は特に必要ないが、授業で覚えた内容は復習して、次回の授業で分からないことは質問出来るようにして欲しい。忘れた事は次回の授業で質問する様に準備して授業に臨む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 手話とはどのような言語なのか理解する。手話で会話をする時に気を付けることを理解する。コミュニケーション方法の一つとして身に付ける。 【授業内容】 実際に自ら手を動かして、簡単な挨拶が出来るようになる。日常会話で覚えておく便利な単語をいくつか紹介して使えるようになる。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 名字の表現を覚える。相手に尋ねる・答えるのコミュニケーション技術を習得する。「指文字」の解説。 【授業内容】 学生一人ひとりが、自分の名字を表現出来るようになる。「指文字」を使って名前の表現が出来るようになる。			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 時刻に関する手話、曜日の表現、数字の表現方法を身に付ける。 【授業内容】 【今日・来週・一か月前・金曜日等】の表現を覚え、短文が表現出来るようになる。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 「疑問詞」を覚える簡単なコミュニケーションが手話で出来るようになる。手話以外のコミュニケーション方法についても理解を深める。 【授業内容】 4回の授業の総まとめとして、相手と手話で会話をする技術の基礎を習得する。伝える気持ちの大切さを理解する。			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 成人聴覚障害とは何か、聴覚障害が及ぼす影響について理解する 【授業内容】 成人聴覚障害とは			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 聴覚障害への検査・支援について理解する 【授業内容】 成人聴覚障害における評価、指導・支援			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 視覚聴覚二重障害の原因・特徴を理解する 【授業内容】 視覚聴覚二重障害			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまで学んだ成人聴覚障害について復習を行い、理解を定着させる。 【授業内容】 定期試験、総復習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤 一彦
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 2・3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 耳鼻咽喉科領域における主な疾病の成り立ち・病態等をわかりやすく解説し理解を促す。これをもとに、医療者のひとりとして病状の安定の安定を支援する。また、障害を理解して患者様の苦しみを共有できるようになる。							
【到達目標】 耳鼻咽喉科領域における主な疾病の原因、病態、症状等を学び、ここから生じる障害を理解する。さらに、これらに苦しむ患者様に共感し、これを支援する医療者としての資質も養う。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック」学研メディカル秀潤社				【授業外における学習】 ・復習をしっかりとすること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 耳の解剖生理について理解し説明できる 【授業内容】 耳の解剖生理			9	【到達目標】 外耳疾患・中耳疾患の病態を説明できる① 【授業内容】 外耳道炎・先天性外耳道閉鎖症・急性中耳炎・慢性中耳炎・真珠性中耳炎・滲出性中耳炎・耳硬化症・耳管開放症		
2	【到達目標】 耳の症候、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 耳の症候、診察、検査、治療			10	【到達目標】 外耳疾患・中耳疾患の病態を説明できる② 【授業内容】 外耳道炎・先天性外耳道閉鎖症・急性中耳炎・慢性中耳炎・真珠性中耳炎・滲出性中耳炎・耳硬化症・耳管開放症		
3	【到達目標】 鼻の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 鼻の解剖生理			11	【到達目標】 内耳疾患・顔面神経疾患・耳科手術の病態を説明できる 【授業内容】 突発性難聴・騒音性難聴・老人性難聴・遺伝性難聴・内耳炎 ベル麻痺・ハント症候群・顔面痙攣・鼓室形成術・人工聴覚器の手術		
4	【到達目標】 口腔・咽頭の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 口腔・咽頭の解剖生理			12	【到達目標】 めまい疾患・固有鼻腔と副鼻腔の疾患・口腔疾患の病態を説明できる 【授業内容】 メニエール病・良性発作性頭位めまい症・前庭神経炎・聴神経腫瘍・薬物中毒・急性副鼻腔炎・鼻アレルギー・急性副鼻腔炎・慢性副鼻腔炎		
5	【到達目標】 喉頭の解剖生理について理解し説明できる 【授業内容】 喉頭の解剖生理			13	【到達目標】 口腔疾患・唾液腺疾患・鼻咽腔閉鎖不全の病態を説明できる① 【授業内容】 舌炎・口内炎・口腔・舌腫瘍・唇裂・口蓋裂・急性扁桃炎・慢性扁桃炎・アデノイド増殖症・睡眠時無呼吸症候群・急性耳下腺炎・ムンプス・嚥石症		
6	【到達目標】 喉頭の診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 喉頭の診察・検査治療			14	【到達目標】 口腔疾患・唾液腺疾患・鼻咽腔閉鎖不全の病態を説明できる② 【授業内容】 舌炎・口内炎・口腔・舌腫瘍・唇裂・口蓋裂・急性扁桃炎・慢性扁桃炎・アデノイド増殖症・睡眠時無呼吸症候群・急性耳下腺炎・ムンプス・嚥石症		
7	【到達目標】 頭部・顔面の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 頭頸部の解剖生理			15	【到達目標】 耳科学・鼻科学・口腔咽頭科学の解剖生理病態を説明できる 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 耳鼻咽喉に関する解剖生理、診察・検査、治療が説明できる 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床神経学 clinical neurology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	柴崎倭花	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 3限	
学科・コース	言語聴覚士科							
【実務経験】 急性期病院の言語聴覚士。今まで急性期や回復期の病院、外来のクリニック等で10年以上の臨床経験がある。								
【授業の学習内容】 予定：脳神経領域の疾患と障害を理解するために、脳神経の解剖・生理学の理解させる。言語聴覚臨床で遭遇する神経疾患を系統だてて分類、学習し、発症メカニズム、臨床症状を、1年次に学習した解剖・生理学の知識を参考にしながら学ぶ。								
【到達目標】 脳を中心とした中枢神経の解剖、機能を基本を理解したうえで、脳血管障害、神経変性疾患などの神経疾患の各論について発症のしくみ、疾患の特長、治療の基本を習得する。これらの神経疾患で生じる障害を系統的に理解して、言語聴覚士としての疾患理解、患者理解の基礎とする。								
【使用教科書・教材・参考書】 脳神経疾患ビジュアルブック(株式会社学研プラス)					【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 中枢神経の構造(解剖)と機能局在の概要について学習する。中枢神経の機能と臨床症状の関連を理解する。 【授業内容】 中枢神経の構造と機能について学ぶ			9	【到達目標】 感染症による脳炎の進行、症状などの特長をしる。自己免疫介在性脳炎について学び、感染症による脳炎との違いを知る。 【授業内容】 炎症性脳疾患(脳炎)について学ぶ			
2	【到達目標】 脳MRI、脳CT、脳血流SPECT等の神経放射線検査について知る。神経学的診察による神経症状の症状を知る。 【授業内容】 神経検査について学ぶ			10	【到達目標】 アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭認知症、脳血管性認知症について、その特徴と対応について説明できる。 【授業内容】 認知症について学ぶ			
3	【到達目標】 意識障害、脳神経麻痺、運動麻痺、感覚(表在知覚、深部知覚)障害について学習する。 【授業内容】 神経症候について学ぶ			11	【到達目標】 遺伝性ニューロパチー、後天性(栄養障害性、中毒性)ニューロパチー、ギランバレー症候群について説明できる。 【授業内容】 末梢神経障害について学ぶ			
4	【到達目標】 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害の各疾患についての特長とその治療について知る。脳局在機能と症状について復習する。 【授業内容】 脳血管障害について学ぶ			12	【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経変性疾患について説明できる。 【授業内容】 神経変性疾患について学ぶ			
5	【到達目標】 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害の各疾患についての特長とその治療について知る。脳局在機能と症状について復習する。 【授業内容】 脳血管障害について学ぶ			13	【到達目標】 多発性硬化症、ADEMなどの脱髄疾患、ギランバレー症候群などについて説明できる。 【授業内容】 脱髄性疾患について学ぶ			
6	【到達目標】 脳腫瘍全般の症状の特長との種類(良性・悪性、細胞種別腫瘍)による予後や治療法の違いを知る。脊髄疾患を理解する。 【授業内容】 脳腫瘍、脊髄疾患について学ぶ			14	【到達目標】 ミオパチー・筋ジストロフィーについて各疾患の特長を説明できる。重症筋無力症などの神経筋接合部疾患について説明できる。 【授業内容】 筋疾患・神経接合部疾患について学ぶ			
7	【到達目標】 脳外傷により生じる出血性疾患や脳挫傷、びまん性軸索損傷について知る。水頭症について知る。 【授業内容】 頭部外傷・水頭症について学ぶ			15	【到達目標】 臨床神経学の解剖・生理と疾患の特長について、基本的知識の習得を確認する。 【授業内容】 定期試験、総復習			
8	【到達目標】 アルコール性神経障害、ウェルニッケ脳症、一酸化炭素中毒など代謝、中毒性疾患について各疾患の特徴を知る。 【授業内容】 アルコール性神経障害、ウェルニッケ脳症、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。※中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)				
【特記事項】								

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
	DysarthriaⅡ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3・4限
学科・コース	言語聴覚士						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で運動性構音障害患者様にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、運動性構音障害の基礎知識(定義、解剖生理、タイプ分類)、発話特徴、検査評価の復習を行った後、新たに各症状に応じた治療、訓練法を講義する。最終的には、実習に向けて、事例検討を実施して、適切な評価と訓練プログラムの立案ができるように演習を行っていく。							
【到達目標】 ・運動性構音障害の基礎的な知識について説明ができる ・各訓練方法を正しく理解し、実際に実施することができる ・検査から得られた結果より、タイプ分類を行い、適切な訓練プログラムの立案ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第2版」医学書院 ・ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 運動性構音障害Ⅰの内容を理解し説明できる 【授業内容】 運動性構音障害の定義より運動性構音障害Ⅰの内容を復習			9	【到達目標】 口腔構音機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 口腔構音機能訓練について学習し、実習を行う② (p170～172)		
2	【到達目標】 AMSDの実施時の教示の仕方、留意点を理解し実施できる 【授業内容】 臨床実習に向けて、AMSDの実施方法の復習を実施する			10	【到達目標】 発話速度の調節法の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発話速度の調整法について学習し、実習を行う (p172～178)		
3	【到達目標】 呼吸訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 呼吸器訓練について学習し、実習を行う (p138～145)			11	【到達目標】 AAC(ローテック・ハイテク)の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 AAC(ローテック・ハイテク)について学習し、実習を行う (p178～198)		
4	【到達目標】 発声機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発声機能訓練について学習し、実習を行う① (p145～151)			12	言語治療目標の立て方を理解し説明することができる 【授業内容】 言語治療目標の立て方を学習する		
5	【到達目標】 発声機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 発声機能訓練について学習し、実習を行う② (p152～156)			13	【到達目標】 AMSDのプロフィールから問題点を抽出し適切な訓練を選択できる 【授業内容】 症例検討①		
6	【到達目標】 鼻咽腔閉鎖機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 鼻咽腔閉鎖機能訓練について学習し、実習を行う (p156～162)			14	【到達目標】 AMSDのプロフィールから問題点を抽出し適切な訓練を選択できる 【授業内容】 症例検討②		
7	【到達目標】 口腔構音機能訓練の概要と実施方法を理解し、実際に行うことができる 【授業内容】 口腔構音機能訓練について学習し、実習を行う① (p162～170)			15	【到達目標】 本講義を受講した知識を用いて、国家試験の模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 前半で学んだ内容について理解して説明できる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 訓練の実施練習をするので、2回目～4回目までは、動きやすい服装でご参加ください。							

科目名 (英)	解剖学Ⅰ AnatomyⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 3, 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、脳血管障害、誤嚥性肺炎の患者様のリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で、脳血管障害、誤嚥性肺炎の患者様のリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、臨床で必要となる画像の読影について講義を行う、また画像読影から障害像を推測し評価の為の検査や訓練について検討する実習を行っていく。							
【到達目標】 ・脳画像を読影して脳の部位の名称を答えることができる ・CT、MRI、f-MRI等の画像の特徴を説明することができる ・画像所見から疾患を鑑別することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 脳画像 医学書院				【授業外における学習】 授業後に毎回の復習を行うこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 脳の側面図の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 脳の側面図の解剖			9	【到達目標】 脳梗塞の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳梗塞の読影		
2	【到達目標】 水平断スライス(基底核レベル・放線冠レベル)の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 水平断スライス(基底核レベル・放線冠レベル)の解剖			10	【到達目標】 脳梗塞の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳梗塞の読影②		
3	【到達目標】 水平断スライス(半卵円中心・頭頂部レベル)の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 水平断スライス(半卵円中心・頭頂部レベル)の解剖			11	【到達目標】 脳出血の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳出血の読影		
4	【到達目標】 水平断スライス(中脳・橋・延髄レベル)の解剖を説明することが出来る 【授業内容】 水平断スライス(中脳・橋・延髄レベル)の解剖			12	【到達目標】 認知症の読影と変性部位より障害を説明できる 【授業内容】 認知症の読影		
5	【到達目標】 前大脳動脈の支配領域・損傷による障害を理解し説明することが出来る 【授業内容】 前大脳動脈の支配領域・損傷による障害			13	【到達目標】 認知症の読影と変性部位より障害を説明できる 【授業内容】 認知症の読影		
6	【到達目標】 中大脳動脈の支配領域・損傷による障害を理解し説明することが出来る 【授業内容】 中大脳動脈の支配領域・損傷による障害			14	【到達目標】 脳卒中・認知症以外疾患の読影と損傷部位より障害を説明できる 【授業内容】 脳卒中・認知症以外疾患の読影		
7	【到達目標】 後大脳動脈の支配領域・損傷による障害を理解し説明することが出来る 【授業内容】 後大脳動脈の支配領域・損傷による障害			15	【到達目標】 解剖学Ⅱで学んだ知識を用いて問題に解答することができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 全7回までの内容を理解し問題に解答することができる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	吃音 (National Exam Preparation: Stuttering and Fluency Disorders)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	湯浅 美琴
学科・専攻		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 2・3限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として小児領域の臨床経験を持つ教員が講義を担当する。							
【到達目標】 吃音・流暢性障害に関する基礎的知識、臨床に活用できる知識を取得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 発声発語障害学 第3版(医学書院)				【授業外における学習】 講義内容の復習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 吃音・流暢性障害の基礎知識① 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・吃音・流暢性障害の定義 ・吃音の発生メカニズムと理論的背景			9	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 吃音・流暢性障害の基礎知識② 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・吃音症状の特徴 発話症状 二次的症狀			10	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 吃音・流暢性障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・情報収集 ・発話の評価			11	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間テスト 吃音・流暢性障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・心理面／性格特徴の評価 ・環境面の評価			12	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 吃音・流暢性障害の治療・支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・種類と理論的背景 ・間接的訓練			13	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 吃音・流暢性障害の治療・支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・直接的訓練			14	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 吃音・流暢性障害の治療・支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・セルフヘルプグループ ・訓練法のまとめ			15	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験の実施			【評価方法について】 小テスト、中間テスト、定期試験にて評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理カウンセリング Psychology II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田島 葵
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1・2・3限
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 様々な対象への相談支援に関わっている教員が、「聴く・共感する」とはということかという観点から講義を進めていく。実際の知識を学び演習することで、知識の暗記ではなく技能としての定着ができるよう授業を進めていく。コミュニケーションのツールが「自分」であることから、自己覚知を進めながらの講義となる。失敗しても、わからなくてもOKなので、毎回の演習には積極的な参加を望む。							
【到達目標】 ・対人援助職にとって必要な基本的コミュニケーションスキルを習得する ・自分の対人関係での癖を説明できる							
【使用教科書・教材・参考書】 「聴く・伝える・共感する技術便利帖」 大谷桂子著 翔泳社				【授業外における学習】 毎回の授業で確実に理解して欲しいことを小テストで出題するため、その内容を確実に復習すること。また予習としてテキストを読んでからの受講を望む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 バイステックの7原則を説明できる ラポールとは何か説明できる 【授業内容】 対人援助の基本的態度			9	【到達目標】 自分のステレオタイプを説明できる 自分のコアビリーフを説明できる 【授業内容】 自己覚知		
2	【到達目標】 話しやすい雰囲気のポイントを列挙できる オープンクエスチョンで会話できる 【授業内容】 聞き上手になるポイント			10	【到達目標】 同情と共感の違いを列挙できる アンビバレンツとは何かを説明できる 【授業内容】 共感する技術		
3	【到達目標】 オープン・ポジションの特徴を列挙できる ペーシングとミラーリングしながら会話できる 【授業内容】 相手が話しやすくなるポイント			11	【到達目標】 アセスメントのポイントを列挙できる 支持的応答のポイントを列挙できる 【授業内容】 アセスメントと支持的応答		
4	【到達目標】 相手の感情を受け止める会話ができる 4つの対人距離を列挙できる 【授業内容】 会話で避けるべきこと			12	【到達目標】 適切な目標設定ができる 【授業内容】 ブリーフセラピー		
5	【到達目標】 メラビアンの法則を説明できる 基本的な話の順序を使って会話できる 【授業内容】 伝え上手になる技術			13	【到達目標】 共感を阻害する自分の思い込みは何かを説明できる 【授業内容】 自己覚知演習		
6	【到達目標】 好まれる声の出し方で会話できる 聴き手を観察しながら会話できる 【授業内容】 印象のコントロール			14	【到達目標】 アサーティブについて説明できる アンガーマネジメント法を列挙できる 【授業内容】 スーパービジョンとアサーション		
7	【到達目標】 論理的に伝えるためのポイントを説明できる 了解がもたれる依頼方法で会話できる 【授業内容】 ロジカルシンキング			15	【到達目標】 対人援助職に必要な知識・技術が習得できているか確認し、復習に生かす 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 7回目までの内容が理解できているか確認する 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 自分で大切だ、覚えておきたいと思ったことはメモを取る							

科目名 (英)	医療安全 Medical Quality and Safety	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義・演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月 曜 1, 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容】 医療に関わる者としての基礎知識、管理法などを学ぶ。 臨床場面で求められる正確性の高い処置や、対応を知るために必要な、医学的対処法を講義、演習を交えて学ぶ。							
【到達目標】 ・医療的ケアの基礎知識やリスク管理や経管栄養法のポイントについて説明できる。 ・感染対策、吸引、聴診、バイタルサイン測定、緊急時対応などの手技を実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「写真でわかる介護職のための医療的ケア」 インターメディカ				【授業外における学習】 復習を重視し、知識や手技の習得を図ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】リスク管理① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 医療現場で必要となるリスク管理について説明できる。			9	【授業単元】経管栄養法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 経管栄養法の基礎知識について説明することができる。経管栄養のケアについて手順を理解できる。		
2	【授業単元】リスク管理② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 医療現場で必要となるリスク管理について説明できる。			10	【授業単元】感染予防 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 衛生的な手洗いができる。手袋、ガウン、マスクの正しい使用方法を実践できる。		
3	【授業単元】バイタルサインの測定 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 体温測定、血圧測定(手動式含む)、心拍数や呼吸数やSpO2測定について、正しく実施することができる。			11	【授業単元】喀痰吸引① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 吸引の基礎知識について説明できる。口腔内吸引・鼻腔内吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
4	【授業単元】緊急時の対応 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自動体外式除細動器(AED)を含む一次救命処置の流れを実施することができる。			12	【授業単元】喀痰吸引② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 口腔内吸引・鼻腔内吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
5	【授業単元】聴診 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 胸部聴診に関する基礎知識について説明できる。聴診器の取り扱いや、聴診の方法について正しく実施できる。			13	【授業単元】喀痰吸引③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 気管カニューレ内部吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
6	【授業単元】医療的ケアの基礎知識、安全管理体制 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 医療的ケアの種類や、ヒヤリハット・アクシデント報告を含む安全管理体制について説明できる。			14	【授業単元】喀痰吸引④ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 気管カニューレ内部吸引について手順通り衛生的に実施することができる。		
7	【授業単元】口腔ケア 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 口腔ケアの基礎知識について説明できる。			15	【授業単元】定期試験、総復習 【授業形態】試験、講義・演習 【到達目標】 定期試験にてこれまでの学習内容や手技についての習得状況を確認する。		
8	【授業単元】中間試験、総復習 【授業形態】試験、講義・演習 【到達目標】 これまでの学習内容や手技を確認する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理測定法 Psychological Measurement	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	田島 葵
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる心理測定法の理論について、体系的に学習する。 また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 心理機能の科学的な測定法や検証法を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。 分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 閾値の測定を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、心理物理学の測定法			9	【到達目標】 質問紙法を説明できる。 【授業内容】 調査法		
2	【到達目標】 尺度水準、誤差を説明できる。 【授業内容】 心理物理学の測定法			10	【到達目標】 サンプリングを説明できる。 【授業内容】 調査法		
3	【到達目標】 標準化を説明できる。 【授業内容】 テスト理論			11	【到達目標】 記述統計を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
4	【到達目標】 妥当性、信頼性を説明できる。 【授業内容】 テスト理論			12	【到達目標】 推測統計を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
5	【到達目標】 因子分析を説明できる。 【授業内容】 テスト理論			13	【到達目標】 検定を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
6	【到達目標】 評定法、順位法を説明できる。 【授業内容】 尺度構成法			14	【到達目標】 検定を説明できる。 【授業内容】 データ解析法		
7	【到達目標】 一対比較法、比率尺度構成法、多次元尺度構成法を説明できる。 【授業内容】 尺度構成法			15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、心理測定法の理解を深める。 【授業内容】 期末試験		
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、心理測定法の理解を深める。 質問紙法を説明できる。 【授業内容】 中間試験、調査法			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	音声障害 I Dysphonia	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	赤沼 賢吾
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、誤嚥性肺炎の患者様のリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 音声障害の種類と内容、検査法、及び治療・訓練の理念とその方法を理解してほしい。そのためにも、難解な専門用語や理論を現場経験で身につけた経験を生かし独自の事例や知識を生かして独自資料にまとめ使用すると共に、具体的でわかりやすい質疑を繰り返し、記憶の定着を図る授業を行っていく。言語聴覚士の役割について授業を展開する。							
【到達目標】 正常発声のメカニズムを理解し、音声障害をきたす疾患の特徴を知る。音声障害の評価として聴覚心理的評価や各検査法の特徴を理解し声の異常を検出できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書：発声発語障害学第3版 医学書院。配布資料。				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 喉頭の構造を理解したうえで喉頭の働きを理解する。また、喉頭を構成する軟骨を加え喉頭の枠組みを理解できる。 【授業内容】 発声の仕組みと声の障害			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 喉頭筋である内喉頭筋と外喉頭筋の役割を理解する。また喉頭筋の走行や神経支配を理解できる。 【授業内容】 発声器官の構造・機能			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 発声の神経として高位中枢や末梢神経系における制御を理解する。また、呼吸器の構造を理解し呼吸調節を理解できる。 【授業内容】 発声の生理とその調節			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 音声障害疾患の分類及び各疾患の特徴を理解する。 【授業内容】 音声障害をきたす疾患			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 音声障害をきたす疾患の原因を理解し、病態と疫学を説明できる。 【授業内容】 音声障害の原因			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 声の異常や自覚症状、他覚的症状・随伴症状を理解したうえで声質以外の特殊症状を説明できる。 【授業内容】 音声障害の症状			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 声の異常を評価する4要素を理解し聴覚心理的評価が行えるようになる。 【授業内容】 音声障害の評価(聴覚心理的評価)			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 本試験を通して、音声障害についての理解を定着させる 【授業内容】 本試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 特記事項無し							

科目名 (英)	学習・認知心理学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	関 美雪
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火・木曜日/2限
【実務経験】 カウンセラー・コンサルタントとして教育現場で24年の心理学領域講師経験。企業で面接を通じ、能力開発支援・心理学の知識・傾聴スキルを活かし対人支援経験豊富。							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる学習・認知心理学の理論を体系的に学習。また、個人とグループワークを通じて自己・他者理解を促進させながら知識と対人支援者としてのスキルを磨く。							
【到達目標】 学習・認知心理学の基礎目標は、人間の知覚、記憶、思考、言語、学習などの認知機能メカニズムを理解し、心理学的な用語を用いて説明・評価できる能力を養うことです。コミュニケーションや高次脳機能障害の背景にある心理過程を理解し、リハビリテーションに応用する素地を作る。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)・プリント				【授業外における学習】 事前にテキストを読み、内容と心理学用語の事前確認、理解促進のために予習・復習をする・手段としてネット検索など可能とする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 感覚の種類・感覚の可能範囲や感度について他者に説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション・感覚について学習・グループワークを通じて相互知識を高める。			9	【到達目標】 概念・問題解決・推論の各用語について他者に説明できる。 【授業内容】 思考・知識について。個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。		
2	【到達目標】 感覚内次元・順応・対比・同化・感覚遮断の説明を説明できる。 【授業内容】 感覚について、グループワークを通じて相互知識を高める。			10	【到達目標】 認知の偏り・表象・知識構造を説明できる。 【授業内容】 思考・知識について。個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。		
3	【到達目標】 色覚・空間・形態・運動感覚、また、知覚の恒常性を説明できる。 【授業内容】 認知・知覚について、グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。			11	【到達目標】 非言語・前言語的メッセージ・象徴・記号・言語の説明ができる。 【授業内容】 言語について。個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。		
4	【到達目標】 知覚統合・相互作用・注意・オブジェクト認知・認知地図を他者に説明できる。 【授業内容】 認知・知覚について、個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。			12	【到達目標】 言語使用と知識・言語理解と産出を説明できる。 【授業内容】 言語について。個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。		
5	【到達目標】 古典的・オペラント条件付けにの2点を事例を用い説明できる。弁別・技能・社会的学習を説明できる。 【授業内容】 学習について、グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。			13	【到達目標】 印象形成・対人能力を説明できる。 【授業内容】 対人認知について。個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。		
6	【到達目標】 学習の転移・動機づけ・欲求水準・学習無力感について他者に説明できる。 【授業内容】 学習について、グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。			14	【到達目標】 ステレオタイプ・認知的不協和音を他者に説明できる。 【授業内容】 対人認知について。個人学習・グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。		
7	【到達目標】 記憶の過程と分類の2点を説明できる。 【授業内容】 記憶について、グループワークを通じて相互知識を高める。心理また専門用語の確認をする。中間試験に向けて振り返り。			15	【到達目標】 定期試験で復習し、学習・認知心理学の促進と理解できていない・わからないことを確認し理解できるようにする。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間試験で復習し、学習・認知心理学の理解促進をする。記憶範囲・容量・忘却の説明ができる。 【授業内容】 中間試験・記憶についてグループワークを通じて相互知識を高める。中間試験振り返り。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 グループワークを通じて対人支援能力もさらに磨いて欲しい。メモを取ることで満足せず事例理解や他教科の繋がりを推測し記憶する。							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅱ DysphagiaⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	室田 由美子
		授業 形態	講義・演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 2・3 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 病院・歯科クリニック・訪問リハ・児童発達支援放課後等デイ・特別支援学校にて摂食嚥下リハに従事し、摂食嚥下リハ学会認定士を取得している。							
【授業の学習内容】 摂食嚥下障害の成人分野と小児分野での幅広い臨床経験を活かし、症例を紹介しながら間接的・直接的嚥下訓練の意義と方法を伝える。授業では演習を多く取り入れ、実践的な技能の習得を目指す。 摂食嚥下障害の当事者や家族や多職種に対し、適切な治療法を選択でき、その根拠を明確に説明できるようになってほしい。							
【到達目標】 ・間接訓練や直接訓練の目的や方法が分かる。 ・小児の嚥下評価と訓練法が分かる。 ・気管切開および栄養管理の概要が分かる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ①「標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学」医学書院 ②「見える！わかる！摂食嚥下のすべて」学研				【授業外における学習】 復習を頑張ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 間接訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。① 呼吸訓練の意義と方法を理解し、実施できる。 【授業内容】 口腔器官の可動域改善や筋力増強訓練について学ぶ。口すぼめ呼吸、横隔膜呼吸、ハフティングなどについて学ぶ。			9	【到達目標】 小児の嚥下評価が分かる。小児の訓練法が分かる。① 【授業内容】 小児の嚥下評価の流れとリスク管理を学ぶ。		
2	【到達目標】 間接訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。② 【授業内容】 咽頭期の改善を目的とした訓練について学ぶ。			10	【到達目標】 小児の摂食嚥下訓練法が分かる。② 【授業内容】 姿勢調整、小児の嚥下調整食分類、感覚異常や異常反射への対応を学ぶ。		
3	【到達目標】 間接訓練および直接訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。 【授業内容】 嚥下反射誘発法、嚥下手技について学ぶ。			11	【到達目標】 小児の液体摂取の訓練法、偏食への対応が分かる。 【授業内容】 小児の液体摂取の訓練法を学ぶ。自閉症スペクトラムに対する偏食への対応を学ぶ。		
4	【到達目標】 直接訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。 【授業内容】 姿勢調整、咽頭残留除去法などの訓練法を演習をまじえて学ぶ。			12	【到達目標】 誤嚥性肺炎・窒息・気管切開管理のリスク管理が分かる。口腔ケアの留意点が分かる。 【授業内容】 肺炎や窒息の治療や応急処置を学ぶ。気管カニューレの仕組みや種類について学ぶ。口腔ケアについて学ぶ。		
5	【到達目標】 嚥下食の特性が分かる。食具の工夫について理解する。 【授業内容】 嚥下食について演習をまじえて学ぶ。食べやすい食器や食具について学ぶ。			13	【到達目標】 栄養管理の概要が分かる。感染症対策を講じることができる。 【授業内容】 栄養状態の評価や胃瘻からの半固形化法について学ぶ。		
6	【到達目標】 嚥下食やとろみの特性が分かる。 【授業内容】 嚥下食やとろみ調整食品やゼリー食調整食品について演習をまじえて学ぶ。			14	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、臨床実習や国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 これまでの学習内容について、問題を解きながら復習する。		
7	【到達目標】 ベッド上での姿勢調整ができる。直接訓練が安全に行える。 【授業内容】 OSCE(ベッド上での直接訓練)を実施する。			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 健常児の摂食嚥下の発達が分かる。ダウン症、自閉症スペクトラムに伴う嚥下障害の特徴が分かる。 【授業内容】 哺乳反射、摂食機能発達の8段階を学ぶ。症例を通して小児の摂食嚥下障害の概要を学ぶ。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Hearing Loss in Children 小児聴覚障害	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	近藤由以子
	学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	8	開講区分 曜日・時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
耳鼻咽喉科・頭頸部外科の言語聴覚士として、小児・成人の聞こえの(リ)ハビリテーションを行っています							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
教科書とレジュメを用いて小児聴覚障害に関する知識をカバーする。							
【到達目標】							
小児聴覚障害に関する基本的知識や臨床の様子を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
城間他(2021)標準言語聴覚障害－聴覚障害第3版」医学書院				こまめな復習をお願いいたします。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 オリエンテーション 【授業内容】 聴覚の機能、聴覚の発達、難聴の歴史、(リ)ハビリテーションの概論			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 小児聴覚障害の代表的な原因を知る 【授業内容】 先天性難聴の原因、難聴遺伝子の診断と原因遺伝子			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 小児の検査の種類 【授業内容】 乳幼児聴覚スクリーニング検査、精密検査			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 コミュニケーション方法を知る 【授業内容】 コミュニケーション方法の種類 + 中間テスト			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 聴覚障害がある場合の進路を知る 【授業内容】 ろう、学習環境、アイデンティティ、制度			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 補聴器による聴覚補償について学ぶ 【授業内容】 補聴器の種類、fitting			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 人工聴覚器による聴覚補償について学ぶ 【授業内容】 人工聴覚器の種類、マッピング			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 【授業内容】 定期テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

Hearing aid and Cochlear implant		必修 選択		必修		年次		2		担当教員		近藤由以子			
科目名 (英)		補聴器・人工内耳		授業 形態		講義		総単位 時間		4		開講区分 曜日・時間		後期 水2・3限	
学科・コース															
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)															
耳鼻咽喉科・頭頸部外科の言語聴覚士として、小児・成人の聞こえの(リ)ハビリテーションを行っています															
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)															
教科書とレジュメを用いて人工内耳をはじめとする人工聴覚器に関する知識をカバーする。															
【到達目標】															
人工聴覚器の性能や適応基準は年々変化を遂げています。最新の情報を得て、国家試験に望みましょう。															
【使用教科書・教材・参考書】								【授業外における学習】							
「標準言語聴覚障害学 聴覚障害 第3版」医学書院															
回		授 業 概 要						回		授 業 概 要					
1		【到達目標】 人工聴覚器の種類を知る 【授業内容】 人工聴覚器の種類と適応を説明						9		【到達目標】 【授業内容】					
2		【到達目標】 人工内耳の仕組みを知る 【授業内容】 人工内耳の仕組み、音声処理						10		【到達目標】 【授業内容】					
3		【到達目標】 人工内耳リハビリの流れを学ぶ 【授業内容】 人工内耳リハビリの流れ、両聴耳効果						11		【到達目標】 【授業内容】					
4		【到達目標】 人工内耳のマッピング、人工聴覚器の限界を学ぶ 【授業内容】 人工内耳のマッピングの様子を紹介、人工内耳の限界と補聴システムの紹介、定期テスト						12		【到達目標】 【授業内容】					
5		【到達目標】 【授業内容】						13		【到達目標】 【授業内容】					
6		【到達目標】 【授業内容】						14		【到達目標】 【授業内容】					
7		【到達目標】 【授業内容】						15		【到達目標】 【授業内容】					
8		【到達目標】 【授業内容】						【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価							
【特記事項】															

科目名 (英)	補聴器・人工内耳 Hearing aid cochlear implant	必修 選択	必修	年次	2年生	担当教員	茂木 雅也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 木 曜 1・2 限
【実務経験】							
言語聴覚士として、店頭での補聴器販売、総合病院やクリニックでの補聴器外来の実務経験あり。							
【授業の学習内容】							
補聴器は加齢性難聴等により聴力低下し聞こえに困難を感じる人にとって有効であり欠かせないデバイスである。補聴器を扱うためには専門的な知識が必要であり、補聴器の構造・機能、調整、機種を選択など働きや言語聴覚士の携わり方について幅広く学習する。							
【到達目標】							
① 補聴器の構造・機能について説明できる。 ② 補聴器業務に対する言語聴覚士の携わり方理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・配布資料 他				【授業外における学習】 聴力検査や聴覚障害など聴覚にかかわる科目について、事前学習しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 補聴器とは何か、集音器との違いを学ぶ。補聴器の形状やタイプなどを説明できる。 【授業内容】 ①補聴器とは、集音器との違い ②補聴器の形状、タイプについて			9	【到達目標】 障害者総合支援法に基づいた支援制度などを学び、補聴器において使用できる支援制度について説明することができる。 【授業内容】 ①各種支援制度について		
2	【到達目標】 デジタル機能、調整について学び、それぞれの機能やフィッティングについて説明できる。 【授業内容】 ①デジタル機能について			10	【到達目標】 色々な症例を今までの学びを活かし、最適な補聴器の選定・調整ができるようにする。 【授業内容】 ①症例検討(グループワーク)		
3	【到達目標】 補聴器の周波数特性について学ぶ。周波数特性について説明することができる。 【授業内容】 ①周波数特性について			11	【到達目標】 補聴器の構造から機能、調整まで総合的に説明することができる。 【授業内容】 ①定期試験		
4	【到達目標】 補聴器の適合までの流れについて学び、説明することができる。 【授業内容】 ①補聴器のフィッティングの流れについて						
5	【到達目標】 補聴器適合検査について学び、その補聴器が適合してるか説明することができる。 【授業内容】 ①補聴器適合検査について						
6	【到達目標】 耳型採取について学び、言語聴覚士と耳型採取の関係や方法について説明できる。 【授業内容】 ①耳型採取について ②イヤモールド・イヤシェルについて						
7	【到達目標】 補聴援助システムについて学び、それぞれの特徴や種類について説明できる。 【授業内容】 ①補聴援助システムとは ②それぞれの種類と特徴について						
8	【到達目標】 実際に補聴援助システムに触れて、どういったものかを学び説明することができる。 【授業内容】 ①ロジャーを実際に体験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	精神医学 Psychiatry	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	丸山 亮光
	学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間
【実務経験】 臨床心理士及び公認心理師として相談支援に携わる講師が、現場や日常場面でも共通する部分から概要と支援について取り上げる。							
【授業の学習内容】 予定：病的うつ、精神病状態に陥った場合には、健康的な人を対象に体系化された心理学では、見立てや対応をすることは難しい。精神医学の知識がないと、治療できない。異常な心の在り方や精神現象を対象として学ぶ。							
【到達目標】 授業内容の理解を通じて国家試験合格基準に達するような知識を得ること、現場でもつながら観点から知識だけではなく、具体性を高めることを目標とする。8回の授業であることから1回毎の内容が多いため、それぞれの事例などを通じて、6割以上の得点率を獲得することを旨とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 精神神経疾患ビジュアルブック 学研メディカル秀潤社 ⇒主要内容は配布資料、スライドなどを用いて進行する。				【授業外における学習】 予めテキストを読んで基本的な概要を確認後に臨むと、事例も具体的に想像しやすく、範囲が広い中での重要点を中心に復習しておさえることが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 操作的診断分類である[ICD10]と[DSM-5]について説明し、前提としての認知機能、精神機能を説明することができる 【授業内容】 精神疾患の分類と精神機能(意識、知覚、記憶、思考)の異常			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 感情や意欲に結び付くパーソナリティ障害や病的習慣・衝動制御障害について説明し、その特徴を述べることができる。 【授業内容】 パーソナリティ障害と情動的制御(感情、意欲) 病的習慣・衝動制御障害			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 気分障害と統合失調症について理解し、その特徴について説明することができる。 【授業内容】 気分障害(うつ病、双極性障害)と統合失調症			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 神経症性障害について理解し、その特徴について説明することができる。 【授業内容】 神経性障害(不安障害、強迫性障害、パニック障害) 解離性障害			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 器質性精神障害、症候性精神障害について理解し、それらと関わりが深い錐体外路症状について説明することができる。 【授業内容】 器質性精神障害(認知症、てんかん)、症候性精神障害(産後うつ病など)、アルコール依存症、薬物療法、錐体外路症状について			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 ストレス系の疾患の特徴に加え、生活に結びつきが深い摂食障害、睡眠障害の概要について説明することができる。 【授業内容】 ストレス系疾患(PTSD、適応障害)、心身症、摂食障害(過食症、拒食症)、睡眠障害			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 児童期～青年期に関わる精神疾患として、自我・知的・発達の3側面に関わる障害について、説明することができる。 【授業内容】 自我意識の異常(発達段階)、知的能力障害、発達障害(LD、ASD、ADHD、チック障害)			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期試験を通じて、本科目の定着率について確認し、自身で振り返る際の手がかりとして推察できる。 【授業内容】 定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、各回の小テスト40点の配分を総合し評価する。小テストの配分は、授業展開により調整を行う予定である。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 各回による分量の割合から、各回をまたいで実施する場合もあるため、進捗状況は毎回確認しておくことが望ましい。							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅲ Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平野 祐紀
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 火曜 2限・3限
【実務経験】 言語聴覚士として急性期～回復期～生活期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 現場での臨床経験にもとづき、現場で必要とされる知識や技術等を伝えながら実習や国家試験に向けての対策を行っていく。実習対策として成人言語分野の観察ポイント、検査目的、検査解釈、ゴール・プログラム立案、症例報告書の書き方等、実践的な力の向上を図る。							
【到達目標】 成人言語分野の評価や検査が行えるようになる。評価や検査結果から自身の考察が述べられ文章で伝えられるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断-成人編 2版 医学と看護社 「言語聴覚療法評価・診断学」医学書院				【授業外における学習】 毎回の授業後に復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 初回介入～評価の過程を理解する。問題点の抽出が出来るようになる 【授業内容】 ICF 情報収集			9	【到達目標】 半側空間無視の検査実施と評価解釈が出来るようになる 【授業内容】 BIT演習		
2	【到達目標】 スクリーニング検査項目の解釈と次の検査選定を考える事が出来る 【授業内容】 スクリーニング評価の目的と解釈			10	【到達目標】 半側空間無視の検査実施と評価解釈が出来るようになる 【授業内容】 BIT演習		
3	【到達目標】 認知機能検査実施と評価の解釈が出来るようになる 【授業内容】 コース立方体テスト、HDSR、MMSE、RCPM			11	【到達目標】 成人構音検査実施と評価の解釈が出来るようになる 【授業内容】 運動障害性構音障害の評価と訓練法		
4	【到達目標】 認知機能検査実施と評価の解釈が出来るようになる 【授業内容】 コース立方体テスト、HDSR、MMSE、RCPM			12	【到達目標】 成人構音検査実施と評価の解釈と訓練立案が行える 【授業内容】 成人構音障害患者のデモ症例分析		
5	【到達目標】 スクリーニング検査項目の解釈と次の検査選定を考える事が出来る 【授業内容】 デモ症例の評価・分析			13	【到達目標】 成人嚥下検査の評価解釈が出来る。訓練について学ぶ 【授業内容】 摂食嚥下障害の基礎知識の振り返り		
6	【到達目標】 スクリーニング検査項目の解釈と次の検査選定を考える事が出来る 【授業内容】 スクリーニング検査作成			14	【到達目標】 成人嚥下検査の評価解釈が出来、訓練立案が行える 【授業内容】 摂食嚥下障害患者のデモ症例分析(VE)		
7	【到達目標】 前半で学んだ検査を自身で解釈し、実演出来る 【授業内容】 OSCE(オスキー)中間試験			15	【到達目標】 成人嚥下検査の評価解釈が出来、訓練立案が行える 【授業内容】 摂食嚥下障害患者のデモ症例分析(VF)		
8	【到達目標】 前半で学んだ検査を自身で解釈し、実演出来る 【授業内容】 OSCE(オスキー)中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅱ Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平野 祐紀
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 火曜 2限・3限
【実務経験】 言語聴覚士として急性期～回復期～生活期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 現場での臨床経験にもとづき、現場で必要とされる知識や技術等を伝えながら実習や国家試験に向けての対策を行っていく。実習対策として成人言語分野の観察ポイント、検査目的、検査解釈、ゴール・プログラム立案、症例報告書の書き方等、実践的な力の向上を図る。							
【到達目標】 成人言語分野の評価や検査が行えるようになる。評価や検査結果から自身の考察が述べられ文章で伝えられるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断-成人編 2版 医学と看護社 「言語聴覚療法評価・診断学」医学書院				【授業外における学習】 毎回の授業後に復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 初回介入～評価の過程を理解する。問題点の抽出が出来るようになる 【授業内容】 ICF 情報収集			9	【到達目標】 半側空間無視の検査実施と評価解釈が出来るようになる 【授業内容】 BIT演習		
2	【到達目標】 スクリーニング検査項目の解釈と次の検査選定を考える事が出来る 【授業内容】 スクリーニング評価の目的と解釈			10	【到達目標】 半側空間無視の検査実施と評価解釈が出来るようになる 【授業内容】 BIT演習		
3	【到達目標】 認知機能検査実施と評価の解釈が出来るようになる 【授業内容】 コース立方体テスト、HDSR、MMSE、RCPM			11	【到達目標】 成人構音検査実施と評価の解釈が出来るようになる 【授業内容】 運動障害性構音障害の評価と訓練法		
4	【到達目標】 認知機能検査実施と評価の解釈が出来るようになる 【授業内容】 コース立方体テスト、HDSR、MMSE、RCPM			12	【到達目標】 成人構音検査実施と評価の解釈と訓練立案が行える 【授業内容】 成人構音障害患者のデモ症例分析		
5	【到達目標】 スクリーニング検査項目の解釈と次の検査選定を考える事が出来る 【授業内容】 デモ症例の評価・分析			13	【到達目標】 成人嚥下検査の評価解釈が出来る。訓練について学ぶ 【授業内容】 摂食嚥下障害の基礎知識の振り返り		
6	【到達目標】 スクリーニング検査項目の解釈と次の検査選定を考える事が出来る 【授業内容】 スクリーニング検査作成			14	【到達目標】 成人嚥下検査の評価解釈が出来、訓練立案が行える 【授業内容】 摂食嚥下障害患者のデモ症例分析(VE)		
7	【到達目標】 前半で学んだ検査を自身で解釈し、実演出来る 【授業内容】 OSCE(オスキー)中間試験			15	【到達目標】 成人嚥下検査の評価解釈が出来、訓練立案が行える 【授業内容】 摂食嚥下障害患者のデモ症例分析(VF)		
8	【到達目標】 前半で学んだ検査を自身で解釈し、実演出来る 【授業内容】 OSCE(オスキー)中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							